

第 27 回 岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2008 年 11 月 20 日(木) ～ 23 日(日)

表彰式 2008 年 11 月 23 日(日)午後 12 時～ 盛岡市民文化ホール・展示ホール

〈〈絵画の部〉〉 出展数 48 点

審査員：及川 久 氏

賞	氏 名	作 品 名	作 品 評
知事賞	さ さ き き み え 佐々木 君江	した きた げん とう 下 北 巖 冬	下北半島の冬の厳しさを、あわい色調で表現され、しかも静と動とがおりなす一時の自然美が的確に描かれている良い作品。
優秀賞	さとう えいこ 佐藤 英子	Nork-「rhythm」-002	思考をこらした形や色彩、それぞれが響き合い共鳴していてすばらしい作品。
奨励賞	つじ せいいち 辻 齊一	しゅうらく ゆ う ぐ れ 集 落 夕 暮 れ	夕暮れの山間集落が的確な描写力により、より静寂さを一層高めている作品。
奨励賞	あ べ け い こ 阿部 ケイ子	さん き ら い 山 帰 来	構成や色彩が調和され、堅実な描写力でその情感を深めている良い作品。
佳 作	かわしま のぶお 川島 信夫	ばん しゅう 晩 秋	晩秋の山路の情景。 気どりの構えもなく実に素直に表現されたものがより情感を深めている。
佳 作	さ さ き や え 佐々木 八重	はす み 蓮の実 (そのⅡ)	同系色でまとめており質感もあり落ち着いたリズムのある良い作品。
佳 作	さ さ き さ く 佐々木 サク	ふう しゃ 風 車	風車の存在を強く印象づけその場の一瞬の情景を感覚的にとらえ表現された良い作品。

総 評

全体的に小品が多く、抽象作品が少なく、具象作品が多い。大きい作品は、形・色、構図等に工夫されその表現描写に力を入れているが、小品はそれが足りないようです。思い切った色、筆致作品を望みます。

第27回 岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2008年11月20日(木)～23日(日)

表彰式 2008年11月23日(日)午後12時～ 盛岡市民文化ホール・展示ホール

〈〈写真の部〉〉 出展数 94点 (うち親子ふれあい写真13点) 審査員：小川 文男 氏

賞	氏 名	作 品 名	作 品 評
知事賞	かつら 桂 みつる 満	ほう おう まい 鳳 凰 の 舞	良いタイミングで捉えている。 レンズの特性を活かしたカメラワークは抜群である。浅い絞りありながら、いいポイントで素晴らしい。
優秀賞	たいら 平 こうのしん 宏之進	はる ふどうたき 春の不動滝	風景写真は、色調と画面構成で決まる。 周辺光景不足に仕上げた感覚は見事である。
奨励賞	つきた 槻田 ひさし 久志	おや こ 親 子	右上に父親の顔を入れ、娘の様子を眺めている表情がいい。全体に無駄なスペースがなく完璧だ。
奨励賞	むらかみ 村上 たみお 民男	お はな み お 花 見	組写真が少なかった。 この組写真は3枚にすれば良かった。 今後勉強すればという期待が持てる。
佳 作	おぼら 小原 じゅんじ 順次	やく どう 躍 動	手前に大きく主題を入れ、奥に見物人を配置した構成が迫力を増した。
佳 作	あいざわ 相沢 ただよし 正吉	じゅ ず まわ 数 珠 回 し	今あまり見ることの出来ないものとなったが、画面一杯にいる子供達が生き生きしている。
佳 作	ち だ ひさし 千田 久	おお 大きくな一れ！ (親子ふれあい写真)	満開の花の前の幸せな母子が明るく表現されてとてもいい。

総 評

スナップとネーチャーが程良く揃い、展示効果もよく作品もレベルが高かった。
組写真の少ないことが残念でした。

ご意見・ご感想

全県下に渡って応募があれば良かった。

第 27 回 岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2008 年 11 月 20 日(木) ～ 23 日(日)

表彰式 2008 年 11 月 23 日(日)午後 12 時～ 盛岡市民文化ホール・展示ホール

〈〈書道の部〉〉 出展数 16 点

審査員：小林 大象 氏

賞	氏 名	作 品 名	作 品 評
知事賞	高橋 恵子 (白萩)	高 青 邱 詩	濃・淡の変化、行間の余白、文字の造形美等考えた作品。
優秀賞	古舘 武彦 (雪林)	趙乗文の詩	四行物、行間の美、迫力、大小の変化等立体的に考えた作品。
奨励賞	蒲沢 弘子 (弘華)	高 青 邱 詩	行間の余白等よろしいが、大小の変化をつけたらもっと良くなる。
奨励賞	千葉 静男 (晴嵐)	発 祥 致 福	四文字の篆書体。 長鋒等で線質に変化をつけたら更に良くなる。
佳 作	松本 寛章 (岸島)	杜 甫 詩	大小の変化、行間の美等考えたら良作となる。
佳 作	吉田 貞子 (光穂)	枯 樹 賦	忠実な臨書であるが、濃淡の変化をつけたら更に良い作品になる。
佳 作	岸 守 (溪仙)	杜少陵詩 秋興八首 其七	作品的には大小の変化、濃淡の変化をつけたら更に良くなる。

総 評

数的には数年来変化は見られないが、質的、内容的には前進したように思う。

ご意見・ご感想

今後もっと増えるよう努力したい。